

夜半歌聲





はじめに

むかしむかし雑司が谷の森に
鬼子母神というお堂があ
って年々お堂に一本のすすき
が生んでいました。
すすきは大きな団玉をく
りてあやしとくいそくに誇
はじめました。
「みみずくやみみずくちゅうもん
は夜目を光らせはははは
と鬼うしきこつ、ちゅうもん
あはれのものしはははは
むるまもちやんとみはは
あはれあはれの話で
はじめようし。」

紙芝居「すすきみみずく」は「郷土の口承文芸」豊島の民話（豊島図書館刊）から「雑司が谷鬼子母神の玩具すすきみみずく」を素材に再話し、図書館の親子読書会の母と子がいつしよに彫刻刀を持って木版彫りの「手作りの紙芝居」を完成しました。豊島区立中央図書館では、これらのオリジナル作品を学校教育や社会教育の郷土資料として印刷、広く配付、郷土の民話をもっと多くの子供たちに知ってもらい「子どもの夢」と「郷土愛」を育てていただくことをお願いするものです。

昭和五十四年十二月

豊島区立中央図書館長

すすきみみずく

(1)

むかし、むかし、雑司が谷の森に、鬼子母神というお堂があつて、としをとつた一
びきのみみずくがすんでいました。

みみずくは、大きなめだまをぐるりぐるり
とくいそうにはなしはじめました。

「みなさんや、みみずくちゅうもんは、よ
る、めをひからせて、ひるは、ねていると
おもうじやろ。まあ、そんなところはあ
るが、このわしはちがうぞ。ひるまも、ちや
ーんとみはつておる。

「さあ、わしのはなしをはじめよう。」





(2)

雑司が谷のくめといふ
かみぢやうとすオのときす
くめとお母さんは鬼子母神
の参道です。めやきを焼く
ながら、あかさんのおやいかに
ままつてしました。もうとらけり
と目もくれ、今までにかまや
たつた参道には人通りがまづ
ありません。
「あんまりおそくまでおかないで
くださいとあれほどおねがいし
ておいたのにとお母さんは
心配さうです。」

雑司が谷に、くめというむすめがいました。
くめが、ちようど、十さいのときです。あ
る日くめとおかあさんは、鬼子母神のきんど
うで、すずめやきをうりながら、おとうさん
のおそいかえりをまつていました。

もう、とつぷりと日もくれ、いままで、に
ぎやかだつたさんどうには、ひとどおりがま
つたくありません。

「あんまり、おそくまでにはたらかないでく
ださいと、あれほどおねがいしておいたの
に。」とおかあさんはしんぱいさうです。





(3)

くめのお父さんはずいぶん
 あいかりでいて、かけかり足で
 ふみはまじり死んでしまいました。
 もうすずめをこころでくめのお父さん
 はいません、お母さんは泣いて
 ばかりはいられません。お父さん
 のかわりに、いしやうけんめい切き
 ました。くめのねては暗いうち
 からあきて畑仕事をしました。だ
 けつ方重い足をひきぎせてかえつて
 くるよ、夜は暗い灯の下で、
 おその人の着物をぬうのでした。
 毎日々々づづづづづづづづづづ
 とう病気でたおれてしま
 いました。

くめのおとうさんは、すずめをおいかけて
 いて、がけからあしをふみはずして、しんで
 しまったのでした。

もう、すずめをとつてくるおとうさんはい
 ません。おかあさんは、ないてばかりいられ
 ません。おとうさんのかわりに、いっしょう
 けんめいはたらきました。くめのねているく
 らいうちからおきて、はたけしごとをしまし
 た。ゆうがた、おもいあしをひきずつてかえ
 ってくるよ、よるは、くらいあかりの下で、
 よその人のきものをぬうのでした。

まいにち、まいにち、くろろがつづきまし
 たので、とうとう、びょうきでたおれてしま
 いました。





(4)



くめは、かみさまにおねがいました。

「かみさま、どうか、おかあさんのびょうきをなおしてください。」

くめは、おかあさんのかわりに、いつしゅうけんめいおいのりしました。けれども、おかあさんのびょうきは、わるくなるばかりでした。





(5)

くめは、おかあさんのかんびようをしたり、
たべていくために、はたらかなければなりま
せん。

「ねんねんよう おころりよう」

「ぼうずのなきごえがうるさい！」

「はやくでていけよ」

「すみません、すこし、あまやどりさせて
ください。」

「はなおがきれてしまったの。ぼろきれもく
ださい。」

「うるさい！ただでやれるものはない！」

くめは、おかあさんの
かんびようをしたり
食べていくために、はたら
かなければなりません。
ねんねんよう、おころりよう。
ぼうずの泣きごえがうるさい。
早くいけよ。
すみません、少しあまやど
りさせて下さい。
はなおが切れてしまったので、
ボロキレも下さい。
うるさい、ただでやれるもの
はない。







(7)

くめはお百度まいりを
思いました。
「くめ、おまえのからだもだいたい
だしてね」とお母さんはふとん
の中から弱々しく言っ
たもいりました。
くめは雨の日も風の日も
毎晩々かけるようにして
鬼子母神のお堂の前を
行ってはおがみもどつては
おがみ百回くりかえし
ました。

くめは、お百度ひゃくどまいりをおもいつきました。

「くめ、おまえのからだもだいたいにしてね」

おかあさんは、ふとんの中から、よわよわ

しいこえでなんともいいました。

くめは、あめの日も、かぜの日も、まいば

んかけるようにして、鬼子母神きしもじんのおどうのま

えをいつてはおがみ、もどつてはおがみ、百ひゃく

かいくりかえしました。





(8)

お百度ひゃくとまいりをはじめてから、六十日たち
ました。

だんだん、さむさがましていきます。

小さいくめは、いっしょうけんめいでした。

八十日がたち、九十五日がすぎて、とうと

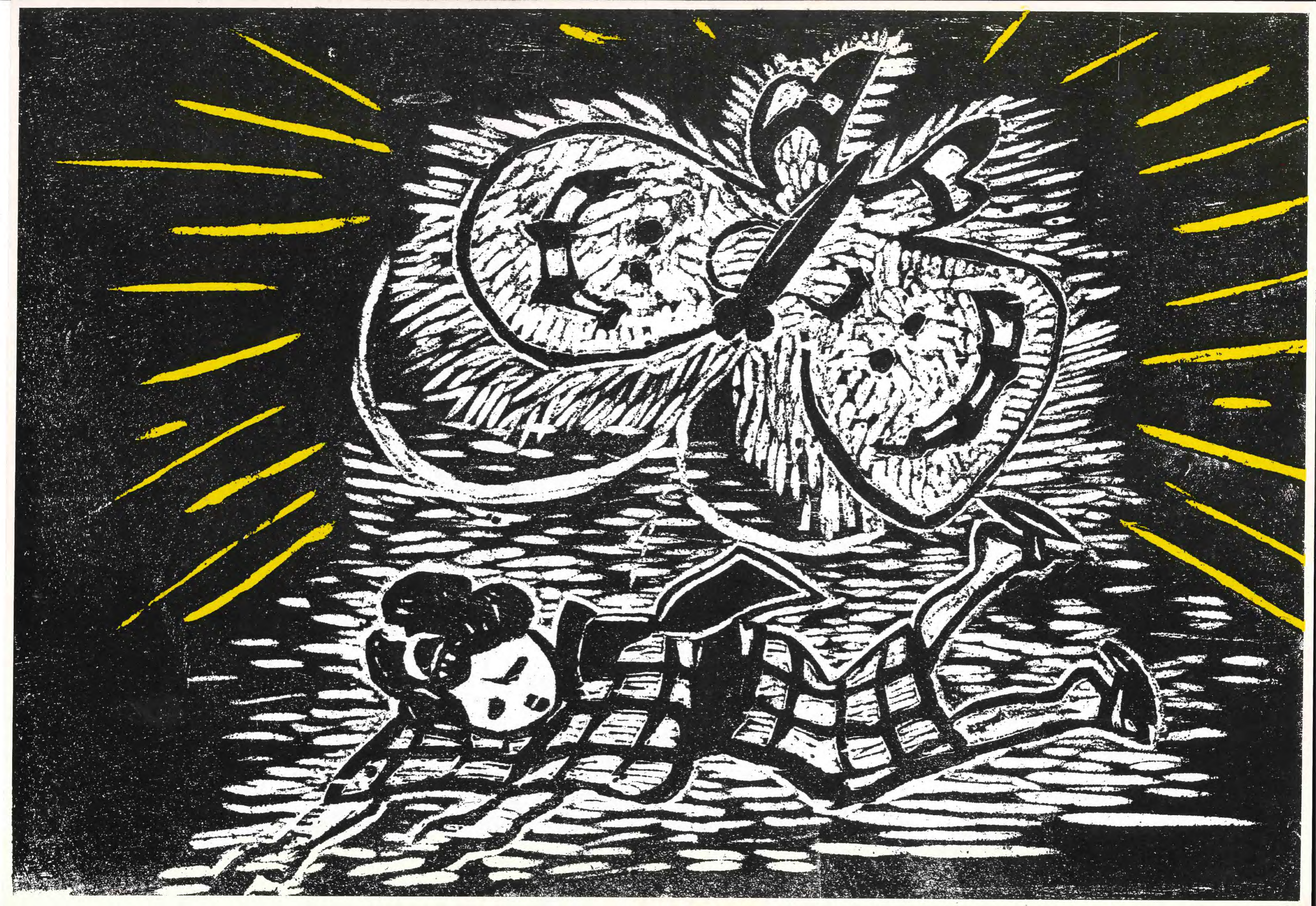
う、満願まんがんの日がちかづいてきました。

あたりは、いちめん、すすきののっばらに

なっていました。

「おかあさん、はやく、よくなつて！」

お百度まいりをはじめてから、六十日たちました。だんだん、寒さがましていきます。小さいくめは、いっしょうけんめいでした。八十日がたち九十五日がすぎ、満願の日がちかづいてあたりは、いちめん、すすきののっばらに野原になっていました。お母さん、早くよくなつて！





(9)

満願の日の夜、くめは、とうとう、さんどにたおれて、ねむってしまった。一ぴきのちようがあらわれて、「くめや、おまえのきもちがよくわかりました。このあたりは、すすきのおおいところですから、これをかりとり、そのほで、みみずくをつくり、おどろのまえでうるとよいでしょう。」はつと、めがさめると、鬼子母神のけやきの上で、みみずくが、「ホーホー」となっています。

満願まんがんの日のよる、くめは、とうとう、さんどにたおれて、ねむってしまった。

どのくらいたつたでしょうか。

一ぴきのちようがあらわれて

「くめや、おまえのきもちがよくわかりました。このあたりは、すすきのおおいところですから、これをかりとり、そのほで、みみずくをつくり、おどろのまえでうるとよいでしょう。」

はつと、めがさめると、鬼子母神きしもじんのけやきの上で、みみずくが、「ホーホー」となっています。





(10)

くめは、すすきのほで、みみずくをつくりはじめました。つくってはこわし、またつくり、なかなかできません。

「やさしいおかあさん、

どうしてもなおってほしい」

くめは、いっしょうけんめいです。そのようすを、おかあさんは、ふとんの中からじーっとみていました。

すすきのほは、だんだんおかあさんのように、やさしいあたたかなかたちとなってできあがっていきました。

くめはすすきのほでみみずくを作りはじめました。つくってはこわし作りながらかたまっていきません。「やさしいお母さんどうしてまたおってほしい。」くめはいっしょうけんめいです。そのようすを、お母さんはふとんの中からじーっとみていました。すすきのほはだんだんお母さんのようにやさしいあたたかなかたちとなってできあがってゆきました。





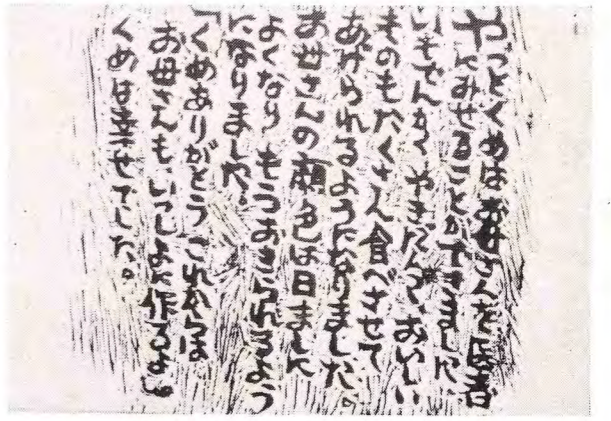


(11)



「すすきみみずくをかってくださいいな」
 「まあ、かわいい！」
 「えんぎがいいんですって！」
 鬼子母神きしもじんに、おまいりにきた人は、だれも
 がかってかえりました。
 すすきみみずくは、大ひょうばん、つくれ
 ばつくるほど、とぶようにうれました。





(12)

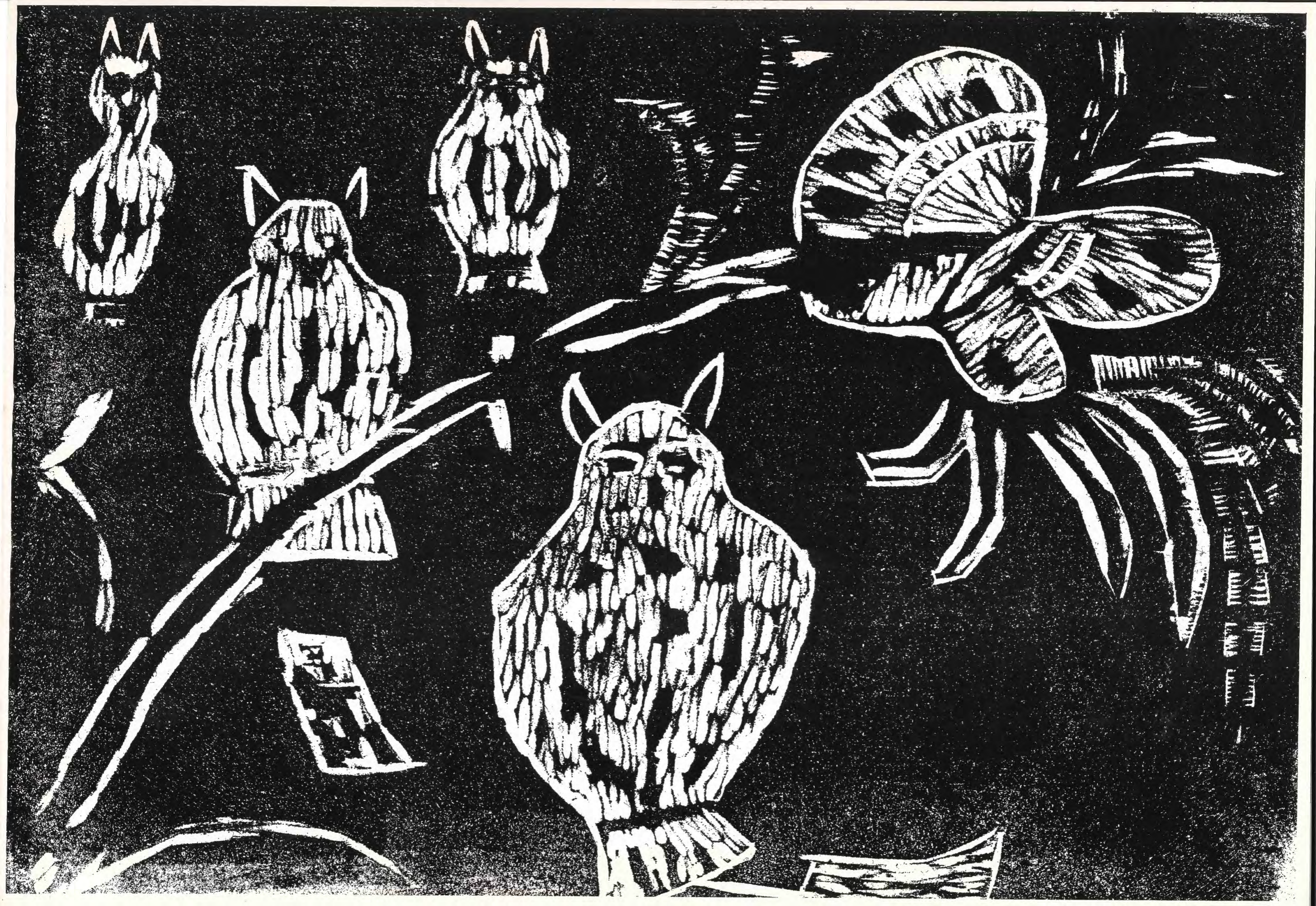
やっと、くめは、おかあさんをいしやにみ
せることができました。

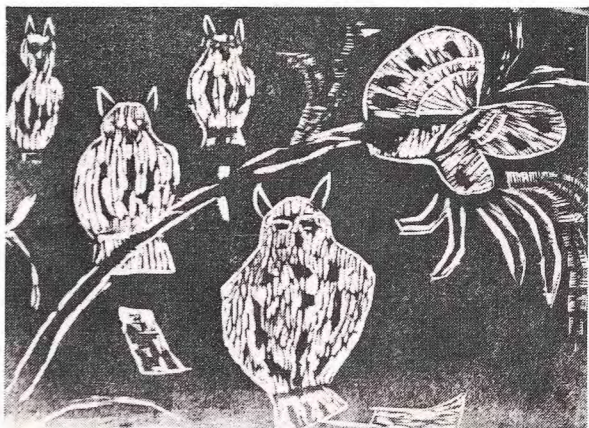
いもでんがく、やきだんご、おいしいもの
をたくさんたべさせてあげられるようになり
ました。

おかあさんのおいろは、日ましによくな
って、おきられるようになりました。

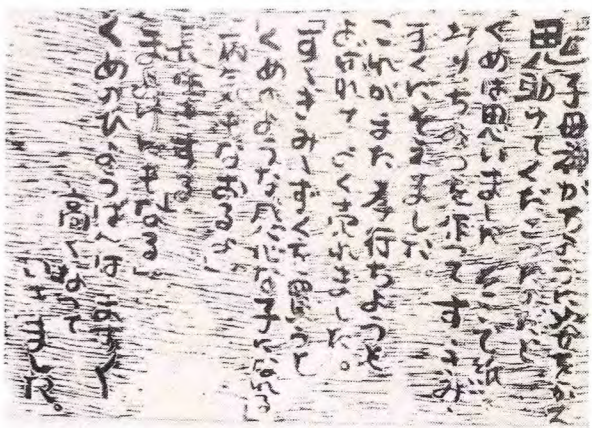
「くめ、ありがとう。これからは、おかあ
さんもいつしよに、すすきみみずくをつく
るよ。」

くめは、しあわせでした。





(13)



鬼子母神きしもじんが、ちように、すがたをかえてたすけてくださったのだと、くめはおもいました。

そこで、かみをきり、ちようをつくつて、すすきみみずくにそえました。

これがまた、孝行こうこうちようとよばれて、よくうれしました。

「すすきみみずくをかうと、くめのようなかんしんな子になれるんですつて」

「びようきもなおるよ」

「ながいきするよ」

「まよけにもなるの」

くめのひようばんは、ますますたかくなつていきました。





(14)

「さて、さて、わしのはなしは、これでおしまいじゃ」

けやきの木の上のおじいさんみみずくは、まんぞくそうにまるいむねをはって、うたをうたいはじめました。

すすきつぽオ

すすきつぽオ

みみずくつくろか

うさぎにしようか

よみせのみみずく

おおいばり

きつぽオ きつぽオ

すすきつぽオ

けやきの木の上のおじいさんみみずくは、まんぞくそうにまるいむねをはって、うたをうたいはじめました。

おわり